

# 長野高専平成30年度計画の策定項目

※ 策定項目については、全国高専一律 掲載頁

## 【1. 教育に関する事項】

<b>(1) 入学者の確保</b>	3～
1 適切な入試実施への取組計画	
2 志願者の質の維持及び志願者確保のための取組計画、入試広報の実施計画	
3 女子学生志願者の確保への取組計画	
4 その他	
<b>(2) 教育課程の編成</b>	4～
1 中長期(5～10年程度)の高専の将来構想、教育課程の改善の検討及び必要な措置	
2 英語力向上に関する取組計画	
3 学習到達度試験の活用計画	
4 専攻科の充実を図る計画	
5 社会奉仕体験活動や自然体験活動等の参加・取組計画	
<b>(3) 優れた教員の確保</b>	6～
1 近隣大学等が実施するFDセミナー、地元教育委員会等が実施する高等学校の教員を対象とする研修、企業や技術士会等を利用した教員を対象とする能力向上に資する研修への参加・実施計画	
2 優れた教員の確保や教員のキャリアパス形成のための取組計画	
3 女性教員採用・登用についての具体的な取組計画(施設整備を含む)	
4 教員FDの取組計画	
5 他機関との教員交流	
<b>(4) 教育の質の向上・改善</b>	7～
1 モデルコアカリキュラム(試案)を踏まえたカリキュラム・授業内容見直しへの計画	
2 アクティブラーニングによる学生の主体的な学びへ向けた計画	
3 ルーブリック等による学生の到達目標を設定した授業内容見直しと授業実践の計画	
4 ICT活用教材や教育方法の開発、利活用計画	
5 特色ある優れた教育実践や取組計画	
6 自己点検評価への取組計画	
7 JABEE認定、機関別認証評価への取組計画	
8 インターンシップの実施計画	
9 企業人材等を活用した共同教育の取組計画	
10 ICT活用教育に必要な構内情報基盤の整備計画	
<b>(5) 学生支援・生活支援</b>	10～
1 メンタルヘルスについての取組計画	
2 就学支援・生活支援の取組計画	
3 キャリア形成支援についての取組計画(女子学生に対する取組を含む)	
4 高い就職率を確保するための取組計画	
5 寄宿舍等の学生支援施設の整備計画	
<b>(6) 教育環境の整備・活用</b>	13～
1 施設の有効活用についての取組計画(利用状況調査、スペースの再配置等)	
2 施設整備計画の取組計画(キャンパスマスタープラン・インフラ長寿命化計画の策定等)	
3 アクティブラーニング等の学習環境充実を図る施設整備計画	
4 PCB廃棄物の保管や処分についての取組計画施設マネジメントの取組状況	
5 環境配慮への取組計画	
6 男女共同参画に関する意識啓発等ワーク・ライフ・バランスを推進するための取組計画	
7 その他	

<b>【2. 研究に関する事項】</b>	17～
1 外部資金獲得への取組計画	
2 産学連携についての取組計画	
3 知財管理についての取組計画	
4 地域技術者育成への貢献(社会人の学び直し等)	
5 小中学校と連携した理科教育支援への取組計画	
6 地域共同テクノセンター等の活用計画	
7 その他	
<b>【3. 国際交流等に関する事項】</b>	20～
1 国際交流協定の締結	
2 学生の海外派遣計画	
3 留学生の受入体制の強化計画 (留学生用の居室整備またはこれに類するものを含む)	
4 外国人留学生に対する研修の実施計画	
5 高専教育モデルの海外展開(タイ)	
<b>【4. 管理運営に関する事項】</b>	25～
1 危機管理への対応	
2 校内の監査体制、監事監査・内部監査及び高専相互会計内部監査の指摘・改善等への対応	
3 公的研究費のガイドラインに対する取組措置状況	
4 教職員の服務監督・健康管理・コンプライアンス意識の向上に関する取組計画	
5 職員に対する研修の実施・参加計画(国、地方自治体、国立大学、企業等が実施する研修等の活用を含む。)	
6 人事交流計画	
7 情報システム環境整備	
<b>【5. 業務運営の効率化に関する事項】</b>	28～
1 一般管理費の縮減取組計画	
2 随意契約の見直し状況	
<b>【6. その他】</b>	29～
1 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	

# 長野工業高等専門学校年度の年度計画に係る実績報告（平成30年度）

## 【1. 教育に関する事項】

### 1－（1） 入学者の確保

#### 1－（1）－1 適切な入試実施への取組計画

○2年間実施した入試時の成績とその後の成績変化の追跡データをもとに、適切な入試実施を検討する。

（実績報告）

○前年度に引き続き、2年間実施して入試時の成績が低い6名の入学生の成績変化を追跡調査した。そのまま成績が低迷している学生と上位になる学生、中間的な位置になる学生があり、入試時の学力とその後の成績とは、必ずしも相関しないという結果となった。このように個別の成績は入試時の成績によらないが、入試倍率が高いと全体的な指導が行いやすいという感触があり、入学者の確保が重要といえる。これらの結果を今後の入試の取組に利用したい。

#### 1－（1）－2 志願者の質の維持及び志願者確保のための取組計画，入試広報の実施計画

○中学校関係者を集めた、説明会を行う。  
○後援会支部会の協力を得て、学校PRを依頼する。  
○各地のゼミナールで学校の説明と宣伝を行う。

（実績報告）

○中学校関係者を集めた、説明会を下記の様に実施した。  
7/31 長野工業高等専門学校、8/2 諏訪教育会館、8/5 佐久教育会館、8/7 松本市教育文化センター、8/8 下伊那教育会館、8/24 小県上田教育会館  
○後援会の各支部において中学生への学校PRを行った。また、9/1 飯下支部、9/8 岳南支部において中学生と保護者等を集めて進学説明会を実施した。  
○9/9 信学会ゼミナール上田駅前校、10/20 同岩村田駅前校において、中学生と保護者を集めていただき、進学説明会を実施した。スクールIE松本西校、甲斐ゼミナールに学校PRのパンフレット等を送付して配布していただいた。また、6/13 妙高市立妙高高原中学校、7/20 信州大学教育学部附属松本中学校にて中学生に対し、進学説明を行った。  
これらの地道な取り組みは、入試倍率の維持による入学者確保につながっていると考えられる。

#### 1－（1）－3 女子学生志願者の確保への取組計画

○高専機構で作成した女子中学生向けのパンフレットを活用し、PRを行う。  
○学校ホームページで理系女子を宣伝し、女子志願者を確保する。  
○一日体験入学、科学イベント等に本校の女子学生を参加させ、女子中学生とのコミュニケーションをはかる。

（実績報告）

○高専機構で作成した女子中学生向けのパンフレットを上記の進学説明会等で配布し、学校PRを行った。  
○学校ホームページのトップページに理系女子に関する紹介を載せ、女子志願者を確保に努めた。  
○7/16 一日体験入学、11/3 キッズサイエンスの科学イベントに本校の女子学生を参加させ、女子中学生と小学生とのコミュニケーションを図った。

これらのことは、女子学生志願者の確保に寄与していると考えられるが、志願者の増加を図るには、新たな取り組みが必要である。

#### 1-(1)-4 その他

○アドミッションポリシーを入学志願者に示し、ポリシーに合った人材を確保する。

(実績報告)

○アドミッションポリシーを入学志願者に示し、ポリシーに合った人材を確保に努めた。  
入学志願者に対してアドミッションポリシーが周知され、どのような学生を求めているか伝えられた。

#### 1-(2) 教育課程の編成

##### 1-(2)-1 中長期(5~10年程度)の高専の将来構想, 教育課程の改善の検討及び必要な措置

- キャリア教育を実施し、学生の主体的学習を進める。
- ・2年間実施してきた夏季自主研修期間等を利用した、キャリア教育を継続して実施する。
  - ・自治体、企業と連携し、オープン教育プラットフォームを形成し、学外での教育を行う。

(実績報告)

○キャリア教育を実施し、下記のような学生の主体的学習を進めた。

- ・一昨年、昨年に続き事前に夏季自主研修期間等を利用した学生の主体的取組を促し、今後のキャリアを考える期間とした。
- ・9/14に塩尻市市民交流センター(えんぱーく)において、「デザイン思考」セミナーを開催し、長野高専から学生が参加してアントレプレナーシップ教育を行った。
- ・11/12に長野高専において、塩尻市高校生起業家育成プログラム事業を実施した。
- ・学生が企業の経営者と会い、企業トップインタビューを実施した。(9/25 マイクロストーン株式会社、10/30 野村ユニソン株式会社)
- ・2019/2/16にグレイスフル塩尻(塩尻市)で開催された高校生企業カンファレンスに長野高専から13名の学生が参加した。
- ・2019/1/26に長野県立大学および2/23に千曲市稲荷山エリアで開催された学生起業家育成事業に4名の学生が参加した。

以上の活動により、学生の主体的学習を推進するにあたり、核となる学生の育成ができた。今後これらの学生が牽引する形でキャリア教育を実施して行きたい。

##### 1-(2)-2 英語力向上に関する取組計画

- 英語プレゼンテーションを授業等で継続して実施する。
- 海外インターンシップ、海外研修を継続する。
- 専攻科または本科の学生を国際会議に参加させる。

(実績報告)

○英語プレゼンテーションの前期授業で継続して実施した。

○夏季自主研修期間中に44名の学生が海外インターンシップ、海外研修を行った。

○専攻科または本科の学生を国際会議に参加させた。  
(7/1-6 CARBON2018、マドリード、スペインほか)

これらの活動により、海外に意識を持った学生が増加し、英語力向上に寄与した。

### 1－(2)－3 学習到達度試験の活用計画

○学習到達度試験をC B Tにより実施する。

(実績報告)

○学習到達度試験に代わり、C B Tによる試験を1～3年生に対して実施した。

### 1－(2)－4 専攻科の充実を図る計画

○特例適用専攻科修了見込み者に対する学士の学位の授与に係る申請を行う(9月)。

○特例適用認定専攻科の変更届を行う(9月)。

○MCC、JABEE、特例適用認定への対応を考慮しつつ、本科教務委員会と連携して、カリキュラムの見直しを進める。

○「実践工学演習」の実施状況を見極めながら、JABEE 対応も考慮し、当該科目の展開について上記カリキュラムの見直しの中で検討する。

○専攻科のエンジニアリングデザイン科目として実施する「機能デザイン」の内容の充実を図る。従来不足していた商品企画・コスト・市場等について、部分的に企業に非常勤の講師を依頼するこの実施状況を確認しつつ、本校としてのエンジニアリングデザイン教育の検討を継続する。

○グローバルコミュニケーションの能力・知識を養うため、海外長期インターンシップへの参加、及び英語での研究発表等について推進する。

(実績報告)

○特例適用専攻科修了見込み者に対する学士の学位の授与に係る申請を行った(9月)。

○特例適用認定専攻科の変更届を行った(9月)。

○MCC、JABEE、特例適用認定への対応を考慮しつつ、本科教務委員会と連携して、カリキュラムの見直しを進めた。

○大学との共同教育プログラムへの対応について検討し、実施に向けた準備を行った。

○「実践工学演習」の実施状況を見極めながら、JABEE 対応も考慮し、当該科目の展開について上記カリキュラムの見直しの中で検討した。

○専攻科のエンジニアリングデザイン科目として実施する「機能デザイン」の内容の充実を図る。従来不足していた商品企画・コスト・市場等について、部分的に企業に非常勤の講師を依頼した。この実施状況を確認しつつ、本校としてのエンジニアリングデザイン教育の検討を継続することとなった。

○グローバルコミュニケーションの能力・知識を養うため、海外長期インターンシップへの参加、及び英語での研究発表等について推進を行った。

○専攻科の英語教育のあり方について、本科との関係も含めて、英語担当教員と意見交換を行った。

### 1－(2)－5 社会奉仕体験活動や自然体験活動等の参加・取組計画

○社会奉仕活動及び自然体験活動の教育への導入を推進する。

- ・特別活動における社会奉仕活動及び自然体験活動の導入を検討する。
- ・学生会を中心に社会奉仕活動をさらに進める。

(実績報告)

○社会奉仕活動及び自然体験活動の教育への導入を推進する。

- ・特別活動における社会奉仕活動及び自然体験活動の導入を検討し、次のように実施した。

- ・「長野市放課後子ども総合プラン」の説明会が4月18日(水)に本校で開催され、36名がアドバイザー登録し、主に若槻地区と三輪地区、古里地区で活動に参加した。

- ・4月15日(日)に開催された「第20回長野マラソン」において、教員5名と陸上競技部他学生32名(審判として13名、補助員として19名)が協力した。また、吹奏楽部15名が高等学校の吹奏楽部とともにフィニッシュ会場でファンファーレを演奏し会場を盛り上げた。

- ・ 5月3日（木）に T0iG0 広場で開催された「表参道芸術音楽祭（長野市主催）」に吹奏楽部 18 名が参加した。
- ・ 学生会が主体となり、定期的（月 1 回程度）に献血活動を行っている。4月14日（土）に長野市内で行われた献血街頭啓発活動に学生会役員 8 名が参加した。また、学園（工嶺）祭 1 日目（10月20日）の献血活動では学生および来場者計 74 名の受付者のうち 58 名が献血（全員 400ml）に協力した。また、骨髄バンクドナー登録が 9 名あった。
- ・ 10月8日（日）に北部スポーツ・レクリエーションパークで開催された「第 5 回ウエルカム三才児まつり」にスタッフとして 10 名の学生が参加した。
- ・ 長野市との連携の取り組みで、「まちなか広場ワークショップ（今年度 2 回開催）」に 3 名の学生が参加した。
- ・ 長野市との連携の取り組みとして、三才駅利用促進(サイまる)活動に次のように学生が参加した。
  - ① 三才児一日駅長イベント（5月4日）に 3 名の学生が参加した。
  - ② 三才駅でのおもてなし活動（2018 年 4 月、5 月、6 月、7 月、8 月、9 月、10 月、11 月、12 月、2019 年 3 月）に各回 3 名の学生が参加した。
  - ③ 7月28日（土）にビッグハットにて開催された「ゆるキャラ（R）グランプリ 2018 決起集会」に 3 名の学生が参加した。
  - ④ 黒姫駅改称 50 周年・信越線開業 130 周年記念イベント（10月13日）に 3 名の学生が参加した。
  - ⑤ 11月10日（土）に古里支所にて開催された「やさしさとふれあいの集い」にスタッフとして 3 名の学生が参加した。

## 1 - (3) 優れた教員の確保

### 1 - (3) - 1

#### 近隣大学等が実施する FD セミナー、地元教育委員会等が実施する高等学校の教員を対象とする研修、企業や技術士会等を利用した教員を対象とする能力向上に資する研修への参加・実施計画

○教員の能力向上に資すると認められる研修会に係る情報の収集と提供を行い、参加経費の支援も検討し、積極的な参加を促す。外部機関、民間企業・団体の主催する研修会・セミナーへ教員を派遣し、技術教育及び教育方法の能力向上を図る。

(実績報告)

○研修情報を常に把握し、内容に応じて、グループウェア等で広く情報提供している。また、適任と認められる者に対して個別に情報提供するなど、的確に参加を促す対応をしている。なお、業務上の有効性が認められる研修の参加費は原則として校費負担としている。

### 1 - (3) - 2 優れた教員の確保や教員のキャリアパス形成のための取組計画

○専門科目（理系の一般科目を含む）にあつては、博士の学位を有する者、技術士等の職業上の高度な資格を有する者及び民間企業等の経験を通して高度な実務能力を有する者等、一般科目にあつては、修士以上の学位を有する者及び教育機関の経験を有する者等、優れた能力を有する者の採用の促進を図る。

○毎年実施される校長との面談において、将来の目的やキャリアプランを具体化し、明確化する。

○在外研究員及び内地研究員の各制度に基づく派遣を積極的に推進する。

(実績報告)

- 平成 31 年 4 月 1 日付けで、電子制御工学科において、博士の学位を有し、民間企業等の経験を通して高度な実務能力を有する者を採用した。
- 平成 31 年 4 月 1 日付けで、一般科において、修士の学位を有し、教育機関の経験を有する者を採用した。
- 6 月に校長と全教員との面談を実施、各教員の将来の目的やキャリアプランを具体化・明確化させた。
- 平成 31 年度の在外研究員に、電子情報工学科の准教授をシンガポールへ、平成 31 年 10 月 1 日から平成 32 年 3 月 31 日の期間派遣することが決定した。また、平成 31 年度の内地研究員については応募がなかった。

### 1- (3) - 3 女性教員採用・登用についての具体的な取組計画 (施設整備を含む)

- 教員公募において、女性限定公募または女性優先公募として実施し、女性教員の採用を一層推進する。

(実績報告)

- 今年度もすべての教員公募において、女性優先にて募集を実施している。
- 平成 30 年 (2018) 度に引き続き、平成 31 年 (2019) 度においても女性教員を学生主事補及び寮務主事補にそれぞれ 1 名任命し、学校運営の中心的な役割を担わせ、女性教員の管理職登用への育成を図ることとした。

### 1- (3) - 4 教員 F D の取組計画

- 教員の能力向上を目的とした F D 研修会を以下の内容で検討し数回開催する。
  - ・アクティブラーニングに関する研修会を実施する。
  - ・情報セキュリティに関する研修会を実施する。
  - ・工学教育に関する研修会を実施する。

- 教員の能力向上を目的とした F D 研修会を以下の内容で開催した。
  - ・第 1 回 F D 研修会「Introduction to CDIO (CDIO 工学教育について)」を 4 月 27 日に開催した。(参加者 59 名)
  - ・第 2 回 F D 研修会「サイバーセキュリティの重要性」を 6 月 6 日に開催した。(参加者 81 名)
  - ・アクティブラーニング等の F D 研修会の実施については次年度引き続き検討することとなった。

### 1- (3) - 5 他機関との教員交流

- 高専・両技科大間交流制度に基づく教員交流を一層推進する。

(実績報告)

- 高専・両技科大間交流制度に基づき、平成 31 年度の募集をしたところ希望者はいなかった。

## 1- (4) 教育の質の向上・改善

### 1- (4) - 1 モデルコアカリキュラムを踏まえたカリキュラム・授業内容見直しへの計画

- W e b シラバスによりモデルコアカリキュラムの運用を定着させる。  
(専攻科) ○W e b シラバスの導入を完了させ、M C C、J A B E E、特例適用認定を考慮しつつ、シラバスの内容の見直しを行う。

(実績報告)

○Webシラバスによりモデルコアカリキュラムを運用し、定着した。

(専攻科) ○Webシラバスの導入を完了させ、MCC、JABEE、特例適用認定を考慮しつつ、シラバスの内容の見直しを行った。

#### 1-(4)-2 アクティブラーニングによる学生の主体的な学びへ向けた計画

○インストラクター教員を中心にアクティブラーニングの普及を図る。

・キャリア教育と連動するなどして、アクティブラーニング用機材を活用する。

(実績報告)

○インストラクター教員を講師として3月に説明会を実施し、アクティブラーニングの普及を図った。その後は少人数のグループを作り、継続的にアクティブラーニングを進めた。

・キャリア教育と連動して、授業中にアクティブラーニング用機材を活用している。学校祭(10/20-21)において、企業展示にこれらの機材を利用した。

#### 1-(4)-3 ルーブリック等による学生の到達目標を設定した授業内容見直しと授業実践の計画

○昨年度入力を終えたWebシラバスのルーブリック評価をもとに、学習評価の定着を図る。

(専攻科) ○Webシラバスの利用推進と、モデルコアカリキュラムの科目レベルの明確化、ルーブリック評価を進める。

(実績報告)

○Webシラバスのルーブリック評価をもとに、学習評価を実施するようになった。

(専攻科) ○Webシラバスの利用推進と、モデルコアカリキュラムの科目レベルの明確化、ルーブリック評価を進めた。

#### 1-(4)-4 ICT活用教材や教育方法の開発、利活用計画

○Blackboardを活用した授業の普及を図る。

○ICTを利用した教材の検討を行う。

(実績報告)

○Blackboardを活用した教材および課題の提示など、授業での活用を進め、学生の理解促進など効果が上がった。

○ICTを利用した教材の検討を行い、来年度K-SECを利用することとした。

#### 1-(4)-5 特色ある優れた教育実践や取組計画

○平成28年度から導入したキャリアデザイン、キャリア演習、海外演習の選択科目を活用し、学生の積極的な学内外でのオープン教育を進める。

○夏季自主研修期間に特色ある学習を展開する。

・企業、自治体と連携した教育を実施する。

(専攻科) ○「学外実習」において、海外長期インターンシップと「実践工学演習」を効果的にリンクさせ、タイ及び台湾等海外におけるエンジニアリングデザイン教育の充実を検討する。

(実績報告)

○平成28年度から導入したキャリアデザイン、キャリア演習、海外演習の選択科目を活用し、学生の積極的な学内外でのオープン教育を進め、学生のモチベーション向上につながった。

○夏季自主研修期間に、本科4年生は実務訓練(インターンシップ)に全員が行き、他の学年の学生はキャリア科目(キャリアデザイン、キャリア演習、海外研修)を実施した。この中でインターンシップ、海外研修を行った。

・1-(2)-1の教育課程の編成の中で述べたように、夏季自主研修期間を中心に企業、自治体



と連携した教育を実施した。

(専攻科) ○「学外実習」において、海外長期インターンシップと「実践工学演習」を効果的にリンクさせ、タイ、台湾、およびシンガポール等海外におけるエンジニアリングデザイン教育の充実を検討した。

#### 1-(4)-6 自己点検評価への取組計画

○平成 31 年度に発行予定の「自己点検評価報告書 (第 12 報)」は、第 3 期中期目標・中期計画の総括を予定しており、その準備を始める。また、今年度開催の参与会において、本校の教育システムの点検評価を行い、機関別認証評価等の外部評価に活用していく予定であるが、その結果も「自己点検評価報告書」に反映できるように検討する。

(実績報告)

○平成 31 年度に発行予定の「自己点検評価報告書 (第 12 報)」は、第 3 期中期目標・中期計画の総括を予定しており、その準備を始めた。また、昨年度開催の参与会において、本校の教育システムの点検評価を行い、機関別認証評価等の外部評価に活用していくこととし、さらに来年度開催の参与会にて同様の点検評価を受け、これらの結果を踏まえて「自己点検評価報告書」に反映できるよう検討を行った。

#### 1-(4)-7 JABEE 認定, 機関別認証評価への取組計画

○本年度の機関別認証評価受審に向けて自己評価書の作成など準備を進める。

○「学生が行う学習達成度評価の分析・評価」の報告書に基づき、その活用を検討する。

(実績報告)

○本年度は機関別認証評価受審にあたり自己評価書を作成し、現地調査への対応を行った。

○教務委員会で審議し、学生が行う学習達成度評価 (学習・教育目標の自己評価) 方法を変更し実施した。

#### 1-(4)-8 インターンシップの実施計画

○本科生の海外インターンシップへの参加を引き続き行う。

○低学年も対象としたインターンシップを引き続き実施する。

(専攻科) ○「学外実習」において、海外長期インターンシップと「実践工学演習」を効果的にリンクさせ、タイ及び台湾等海外におけるエンジニアリングデザイン教育の充実を検討する。

(実績報告)

○本科生の海外インターンシップへを引き続き行い、30 名以上の学生が参加した。

○低学年も対象としたインターンシップを引き続き実施し、複数の学生が参加した。

(専攻科) ○「学外実習」において、海外長期インターンシップと「実践工学演習」を効果的にリンクさせ、タイ、台湾、およびシンガポール等海外におけるエンジニアリングデザイン教育の充実を検討した。

#### 1-(4)-9 企業人材等を活用した共同教育の取組計画

○国内外の企業・機関と共同してインターンシップを充実する。

・本科生・専攻科生の実務訓練・学外実習を継続する。

(専攻科) ○企業から招聘した非常勤の講師を活用した実践的な技術を教授するためのカリキュラムについて検討する。

・高専機構の「企業技術者等活用プログラム」を引き継ぎ、「地域技術者から学ぶものづくり技術 (地域産業のニーズに根差した技術力伝承教育)」教育を継続する。

・専攻科生の海外長期インターンシップを推進する。

(実績報告)

- 国内外の企業・機関と共同してインターンシップを充実した。
- ・本科生・専攻科生の実務訓練・学外実習を継続した。
- (専攻科) ○企業から招聘した非常勤の講師を活用した実践的な技術を教授するためのカリキュラムについて検討し、「機能デザイン」において企業経営者、「実践工学演習」において技術者等による講義を実施した。
- ・高専機構の「企業技術者等活用プログラム」を引き継ぎ、「地域技術者から学ぶものづくり技術(地域産業のニーズに根差した技術力伝承教育)」教育を継続して行った。
- ・専攻科生の海外長期インターンシップの推進を行った。

#### 1-(4)-10 ICT活用教育に必要な構内情報基盤の整備計画

- e-ラーニング及びICT活用教育への取組みを行う。
- 長岡技術科学大学のアドバンストコースに引き続き参加する。

(実績報告)

- e-ラーニング及びICT活用教育への取組みについては、教材が十分揃っていないので、その調査と活用の検討を行った。
- 長岡技術科学大学のアドバンストコースに引き続き参加し、協働教育科目の英語プレゼンテーション基礎を実施した。

#### 1-(5) 学生支援・生活支援

##### 1-(5)-1 メンタルヘルスについての取組計画

- 学生の心身の健康維持増進及び安全確保に関し、引き続き学内各組織の円滑な連携に努める。
- ・学生支援委員会、学生相談室及び学年会が連携し、1・3年生を対象として、心身の健康・安全に関する「心のケア講習会」を実施する。
- ・進路説明会において、保護者を対象とした「学生のメンタルヘルス」に関する講習会を開催する。
- ・文化祭一般公開日に合わせて、保護者向けのカウンセラー特別相談会を実施する。
- ・学校指定の精神科医と連携し、学生相談体制の充実を図る。
- ・教職員を対象とした学生相談室研修会及び学生相談室ミニレクチャを開催する。
- ・メンタルヘルスに関する講演会の実施を検討する。
- 学生が学生相談室を利用しやすい体制をさらに整備する。
- ・カウンセラーが常駐していることについて、ポスター等を利用して周知し、学生が相談しやすい環境づくりに努める。
- ・新入生全員とカウンセラーとの面談を設定する。
- ・担任、課外活動指導教員、教科担当教員及び寮担任等が連携し、問題を抱える学生の指導体制を構築し、様々な観点から学生を見守る。
- 学校適応感尺度調査の実施と、この結果に基づく情報を関係教員で共有し指導に当たる。
- ・高専機構から示された『学校適応感尺度調査』を、全学生を対象として実施する。
- ・上記調査の結果に基づき、問題を抱えた学生の情報を学年及び学科毎に共有し、専門のカウンセラーのアドバイスを仰ぎながら、学年及び学科、相談室、学生支援委員会が連携し見守りと指導を行う。状況により、カウンセラーと学生との面談も設定する。
- 寄宿舎において、寮生対象のメンタルヘルスの取組を行う。
- ・SNSや命を守るなどの講演会を開催する。

(実績報告)

- 学生の心身の健康維持増進及び安全確保に関し、引き続き学内各組織の円滑な連携に努める。
  - ・学生支援委員会、学生相談室及び学年会が連携し、心身の健康・安全に関する「心のケア講習会」を、平成30年度は5月9日に3年生全員、5月22日に1年生全員を対象として実施した。
  - ・進路説明会における保護者を対象とした「学生のメンタルヘルス」に関する講習会を、平成30年度5年生については平成30年3月31日に開催した。また、平成31年度5年生については、時期を早め、平成31年3月21日実施とした。
  - ・文化祭一般公開日である10月20日、21日に保護者向けのカウンセラー特別相談会を実施し、2日間で11組の来談があった。
  - ・学校指定の精神科医と連携した学生相談体制のあり方について引き続き検討することとなった。
  - ・教職員を対象とした学生相談室ミニレクチャを3月14日に開催し、保健室を訪れる学生の変化の状況や学生相談室スタッフとしての経験をテーマとした看護師による講演ならびに学生相談に関する情報交換を行なった。
  - ・進路決定に向けた心構えに関するカウンセラー講演を、4年生全員を対象として2月19日に実施した。
- 学生が学生相談室を利用しやすい体制をさらに整備する。
  - ・カウンセラーが常駐していることについて、ポスター等を利用して周知するとともに、教員から声をかけるなど、学生が相談しやすい環境づくりに努めた。
  - ・1年生の全クラスにカウンセラーが訪問し、講演ならびにストレスに関するセルフチェックを12月14日と18日を利用して実施した。学生が相談しやすい環境に近づけるためのより良い方法について検討を重ねている。
  - ・担任、課外活動指導教員、教科担当教員及び寮担任等が連携し、様々な観点から学生の見守りにあたっている。
- 学校適応感尺度調査の実施と、この結果に基づく情報を関係教員で共有し指導に当たる。
  - ・高専機構から示された『学校適応感尺度調査』を、全学生を対象として6月18日～22日に実施した。
  - ・上記調査の結果に基づき、問題を抱えた学生の情報を、夏季休業期間を利用して学年及び学科毎に共有し、カウンセラーのアドバイスを仰ぎながら、学年及び学科、相談室、学生支援委員会が連携し見守りと指導を行っている。心配な学生については、カウンセラーとの面談を実施している。
- 寄宿舎において、寮生対象のメンタルヘルスの取組を行う。
  - ・4/1の1年生入寮説明会の折りに、1年生の新入寮生93名とその保護者に対して、寮のネットワークの概要説明とSNS利用について注意すべき点の講演を行った。また、1/12の寮祭時に、ネットワーク講演会を実施し、1年生62名、ネットワーク違反学生36名が参加した。ネットワークの利用について理解が深まり、この講演会の効果あり、今年度SNS関連の問題（誹謗中傷など）はなかった。

### 1－(5)－2 就学支援・生活支援の取組計画

- 学生支援委員会において、経済情勢等を踏まえた上で、就学支援・生活支援を推進する。
  - ・入学料・授業料免除、各種奨学金制度を活用した就学支援を積極的に行う。
  - ・入学料・授業料免除、各種奨学金の選考については、学生に免除制度や各種奨学金を周知し、公正で的確な選考を行う。

(実績報告)

- 学生支援委員会において、経済情勢等を踏まえた上で、就学支援・生活支援を推進する。
  - ・入学料・授業料免除、各種奨学金制度を活用した就学支援を積極的に行った。

- ・入学料・授業料免除、各種奨学金の選考については、学生に免除制度や各種奨学金を周知し、公正で的確な選考を行った。
- 平成 30 年度創設の「長野高専基金」を原資とした本校独自の給付型奨学金による支援等の検討を行った。

### 1－(5)－3 キャリア形成支援についての取組計画（女子学生に対する取組を含む）

- 平成 24 年度から運用している進路支援室の充実とキャリア形成支援について引き続き検討を進める。
- ・進路担当主事補を中心に、低学年からの系統的なキャリア教育の支援体制を引き続き検討する。
- ・1年生に対し、進路が決定した5年生による進路講演会を行う。
- ・3年生向けキャリア教育として、例年どおり企業・現場見学を行う。また、進路が決定した5年生による進路講話等を実施する。
- ・4年生向けキャリア教育として、例年どおり企業・現場見学を行う。
- ・4年生に、キャリアコンサルタントによるセミナー、進路講演会を実施する。
- ・4学年会と協力し、卒業生による企業説明会等を実施する。キャリア教育の一環として、下級生の希望者には参加を認める。
- 女子学生に対する取り組みについては、活躍する先輩等からの情報を収集し周知する。
- ・国内及び海外で活躍する卒業生等からの情報を本校ホームページや学園だより等で周知する。
- ・本校女子学生からの情報や下級生に対するアドバイスについて、引き続き本校ホームページ、学園だより及び学生会活動等を通じスムーズに伝達する。

#### (実績報告)

- 平成 24 年度から運用している進路支援室の充実とキャリア形成支援について引き続き検討を進める。
- ・進路担当主事補を中心に、低学年からの系統的なキャリア教育の支援体制を引き続き検討した。
- ・平成 31 年度 5 年生の保護者を対象とした進路説明会および学生も同席しての進路面談を平成 31 年 3 月 21 日（祝・木）に開催した。
- ・1年生に対し、進路が決定した5年生による進路講演会を12月11日（火）に行った。
- ・3年生向けキャリア教育の一環として、例年どおり企業・現場見学を11月8日（木）・9日（金）に実施した。進路が決定した5年生による進路講話は日程の都合で実施できなかった。
- ・4年生向けキャリア教育の一環として、例年どおり企業・現場見学を11月7日（水）～9日（金）に行った。
- ・4年生対象の進路講演会を10月3日（水）に実施した。また、キャリアコンサルタントによる進路セミナーを2月2日（土）に実施した。
- ・全学年を対象とし、学園祭期間中【10月20日（土）・21日（日）】に希望企業が展示説明を行うコーナー「企業展」を設置した。当日は約20社が参加した。キャリア教育の一環としているが、多くの保護者も訪れた。
- ・4年生対象の進学講演会を12月19日（水）に実施した。キャリア教育の一環として、下級生の希望者には参加を認め、3年生が若干名出席した。
- ・4学年会と協力し、卒業生による企業説明会「OB・OG講演会」を1月16日（水）に実施した。キャリア教育の一環として、下級生の希望者にも参加を認めた。
- 女子学生に対する取り組みについては、活躍する先輩等からの情報を収集し周知する。
- ・国内及び海外で活躍する卒業生等からの情報を本校ホームページや学園だより等で周知した。
- ・本校女子学生からの情報や下級生に対するアドバイスについて、引き続き本校ホームページ、学園だより及び学生会活動等を通じスムーズに伝達するよう努めた。

#### 1 - (5) - 4 高い就職率を確保するための取組計画

- 本校における企業情報、就職・進学情報などの提供・相談方法を含めたキャリア形成支援に係る体制について改善を試み、学生・教職員へ周知する。
- ・進路指導に関する意見交換会を年2回開催し、就職、進学の進行状況を分析し、必要な対策を講じる。
- 本校における就職率は例年ほぼ100%となっている。この状況を今後も継続するための要点を整理した「平成29年度進路指導状況報告書」を取りまとめ、平成30年5月に教職員に周知する。今年度も同様の趣旨で報告書を作成し、教職員に周知する。

(実績報告)

- 本校における企業情報、就職・進学情報などの提供・相談方法を含めたキャリア形成支援に係る体制について改善を試み、学生・教職員へ周知する。
- ・進路指導に関する意見交換会を9月28日(金)に開催し、就職、進学の進行状況を分析した。また、平成31年1月29日に進路指導会議を開催し、平成30年度の最終的な分析と、次年度に向け必要な対策を講じた。
- 本校における就職率は例年ほぼ100%となっている。この状況を今後も継続するための要点を整理した「平成29年度進路指導状況報告書」を取りまとめ、平成30年5月に教職員に周知する。今年度も同様の趣旨で報告書を作成し、教職員に周知する。
- ・「平成29年度進路指導状況報告書」を取りまとめ、平成30年4月に教職員に周知した。「平成30年度進路指導状況報告書」を取りまとめ、平成31年3月に教職員に周知した。

#### 1 - (5) - 5 寄宿舍等の学生支援施設の整備計画

- 防犯カメラのデータ共有システムの構築を検討する。
- 老朽化した設備(浴室ボイラ改修、食堂空調改修等)について再点検・整備を検討する。
- 老朽化してきている設備(洗濯機、乾燥機、掃除機など)の更新を行う。
- 老朽化してきている留学生共用室、倉庫、旧ボイラー室等の再検査を行い、修繕計画を検討する。

(実績報告)

- 防犯カメラのデータ共有システムの構築は、機器の問題がありできなかった。
- 老朽化した設備の再点検・整備・修繕として以下の事項を実施し、学生が快適に過ごす環境が構築できた。
  1. 機構から特別に予算をいただいた事項(寮食堂空調設備更新工事、4号館西側屋外階段更新工事)
  2. 学生寮生活環境整備経費での事項(3号館1階シャワー室換気扇取付け及び建具等の改修工事、7号館屋上非常口及び屋外階段等改修工事、寮内各棟に隣接する樹木の枝の剪定)
  3. 寄宿舍経費での事項(食堂厨房大型冷蔵庫更新)上記以外にも、玄関扉や屋根などの修理、厨房の調理機械などの更新や修理、寮内各所の設備・備品類の修理や更新などを実施している。また、営繕要求として寮の風呂給湯設備更新を申請し、更なる施設の充実を図るように考えている。
- 老朽化してきている留学生共用室、倉庫、旧ボイラー室等の再検査を行い、修繕計画の検討を行った。

#### 1 - (6) 教育環境の整備・活用

##### 1 - (6) - 1 施設の有効活用についての取組計画(利用状況調査、スペースの再配置等)

○第3期中期計画を基本に、施設マネジメント重視の観点から、現有のキャンパスマスタープランの見直し・修正等を継続的に進める。

(実績報告)

○第3期中期計画を基本に、施設マネジメント重視の観点から、現有のキャンパスマスタープランの改訂版の検討を行った。

### 1-(6)-2 施設整備計画の取組計画(キャンパスマスタープラン・インフラ長寿命化計画の策定等)

○毎年見直されるキャンパスマスタープランを踏まえつつ、グローバル人材創出のための教育の充実を支える施設整備計画を検討し、関連予算の獲得を目指す。

○今後多様化が想定される教育・研究に的確に対応しうる施設整備を図るため、その基礎データとなる学生・教職員等の利用度調査(施設の稼働率調査)を実施する。

○老朽化した寄宿舎4号館屋外鉄骨階段の更新計画を進める。

○屋外運動場排水不良の機能改善を進める。

(実績報告)

○毎年見直されるキャンパスマスタープランを踏まえつつ、グローバル人材創出のための教育の充実を支える施設整備計画を検討し、老朽化した設備更新等の予算要求を行った。

○今後多様化が想定される教育・研究に的確に対応しうる施設整備を図るため、その基礎データとなる学生・教職員等の利用度調査(施設の稼働率調査)を7月に実施しデータの集計を行い、今後の検討資料とした。

○老朽化した寄宿舎4号館屋外鉄骨階段の工事予算を確保し、屋外鉄骨階段の更新工事を実施した。

○屋外運動場排水不良の機能改善を進めるために事業の予算要求を行い、予算を確保した。

### 1-(6)-3 アクティブラーニング等の学習環境充実を図る施設整備計画

○セミナー室及び講義室の2室に、アクティブラーニング用の机、椅子等を平成27年度に配置したので、この2室をアクティブラーニング用として使用を促進する。

○ボード等の活用により、ポスター発表形式によるアクティブラーニングを推進する。

(実績報告)

○セミナー室及び講義室の2室に、アクティブラーニング用の机、椅子等を平成27年度に配置したので、この2室をアクティブラーニング用として使用を促進した。

○ボード等の活用により、ポスター発表形式によるアクティブラーニングを推進した。

### 1-(6)-4 PCB廃棄物の保管や処分についての取組計画施設マネジメントの取組状況

○平成29年度に保管PCB処分済

(実績報告)

○平成29年度に保管PCB処分済

### 1-(6)-5 環境配慮への取組計画

○電子情報工学科棟の空調整備を計画に基づきさらに推進する。

○学生寮食堂の空調整備を計画に基づき推進する。

○学生寮の共用施設の照明のLED化を検討する。

○廃棄物の排出削減と分別収集を学生に経験させることにより、環境マインドの醸成を目指す。

○教室清掃状況の調査を実施することにより、教育環境向上の動機付けの一助とする。

(実績報告)

- 電子情報工学科棟の空調整備を計画に基づきさらに推進するために次年度の予算要求事業として計上した。
- 学生寮食堂の空調整備を計画に基づき推進するために次年度の予算要求事業として計上した。
- 学生寮の共用施設の照明のLED化のための予算確保について、検討を行った。
- 廃棄物の排出削減と分別収集を目標とし、紙ごみを資源ごみとして回収する旨、全学生と教職員に通知するとともに、廃棄物の分別方法を簡便にし、資源化の向上を図った。
- 教室清掃状況の調査を7月と1月に実施し、実施結果を全教員宛周知した。
- 校内において不法投棄された物品を撤去するとともに、不法投棄禁止の通知を行った。
- 各種コンテストに出品する、製作に関係する課外活動の実施場所に対し、整理整頓の徹底を通知し教育環境の向上を図った。

### 1-(6)-6 男女共同参画に関する意識啓発等ワーク・ライフ・バランスを推進するための取組計画

- 産休、育休等の必要が出た時には制度を利用できるよう、さらに周知する。
- 産休、育休等の教員が在籍する学科への支援内容を検討する。
- 平成25年度から実施している女性教員を新規採用した学科へのインセンティブ付与（研究費配分）を活用し、引続き女性教員の採用促進を図る。
- 男女共同参画セミナー「生と性の講習会（第3学年）」（長野市との連携事業）を開催する。

(実績報告)

- 産休、育休等の必要が出た時には制度を利用できるよう、グループウェアを随時最新の状況に更新し周知した。
- 産休、育休等の教員が在籍する学科については、産休、育休等を希望する教員の授業を非常勤で対応し、その取得が容易になるよう配慮した。
- 平成25年度から実施している女性教員を新規採用した学科へのインセンティブ付与（研究費配分）は、平成29年4月1日付け採用者までで終了し、平成29年4月2日以降廃止となった。平成30年4月1日付け女性教員の採用はなかったが、引続き女性教員の採用を図ることとした。
- 男女共同参画セミナー「生と性の講習会（第3学年）」（長野市との連携事業）を開催予定である。  
・12月10日（月）に「性の健康・安全とライフデザイン」をテーマに、実施した。

### 1-(6)-7 その他

- 寄宿舎の国際交流圏で、留学生や国際交流ステイ学生との交流促進のための生活環境改善意見交換会を実施し、その内容について環境整備の改善等を検討する。
- ビブリオバトルを実施し、プレゼンテーション力の向上を図るとともに読書習慣を身につけさせる。
- ブックハンティングツアー（2回）を実施し、学生の目線で選書した図書を蔵書に加える。

(実績報告)

- 寄宿舎の国際交流圏で、留学生や国際交流ステイ学生との交流促進のための生活環境改善意見交換会を実施し、その内容について環境整備の改善等を検討する。今年度の第1回目の「留学生との懇談会」が6/20に開催された。第2回目の「留学生意見交換会」が2/26に開催され、卒業する5年生から3年間高専で行ったこと、後輩留学生へのアドバイスなどが発表された。施設面の希望より、点呼などのソフト面の改善要求があった。
- ビブリオバトルを6月27日実施した。参加者8名のうち、4名が発表した。12月19日に2回目のビブリオバトルを実施した。参加者8名のうち、4名が発表した。プレゼンテーション力の向上を図るとともに読書習慣を身につける一助としてビブリオバトルを開催しているが、今後も普

及に努めていく。

○ブックハンティングツアーを7月18日に実施し、学生8名教員2名が参加し、学生・教員の両目線で選書した計57冊の図書が選定され、図書館の蔵書に加えられた。12月6日に第2回目のブックハンティングツアーを実施し、計59冊の図書を選定した。購入した図書の一部に各自の紹介文を付け、図書館で展示した。



## 【2. 研究や社会貢献に関する事項】

### 2-1 外部資金獲得への取組計画

- 科学研究費補助金の申請数及び採択件数を増加するための施策を引き続き検討し、実施する。
- 教員の研究活動を把握し、これをもとに各種助成事業への応募を促す。
- 大学等と連携して、外部資金の獲得を目指す。

#### (実績報告)

- 研究計画書添削支援を実施し、コーディネータ2名、学内教員7名による研究計画調書の添削指導を実施（7月1日～10月22日）申請率は約90%になった。
- 9月10日付けで全教員に対して科研費申請をするよう通知をしている。
- 『研究計画調書の点検・改善策のスキル養成（DVD）』『採択される科研費申請（書籍）』『科研費採択のコツ』『採択される科研費申請ノウハウ 改訂版』を購入し校内で随時貸出している。
- 研究業績の広報に向けて、研究業績を Researchmap へ登録するよう呼びかけた。
- グループウェアへ各種助成事業の公募内容を随時掲示している。
- 大学との連携による研究助成申請を1件行い、採択はなかった。
- 今年度「長野高専基金」を創設した。

### 2-2 産学連携についての取組計画

- 本校の機器シーズ集をより使いやすく分類・作成して公表することにより、学内外からの機器の利用を促進し、共同研究につなげる。
- コーディネータを活用し、産学連携を促進する。
- 地域企業との交流を活性化させ、産学連携を促進する。
- 技術展示会等へ研究シーズを出展する。

#### (実績報告)

- 研究シーズ、機器シーズを充実させ、冊子やホームページに掲載するとともに、各種イベントや産業展において企業への周知を行った。
- コーディネータを活用して、地域企業への訪問によるニーズの掘り起こし、教員シーズとの結びつけ等を行った。
- 中南信を担当するコーディネータにより、中南信企業へのPRの強化を図った。
- 長野県、県公設試、金融機関や商工会議所などとの連携強化に努めた。
- コーディネータを活用し、定期技術相談会を設定した。
- コーディネータを活用して、連携を強化することにより、共同研究新規13件、受託研究新規1件、寄付金19件を獲得した。
- 地域企業と協同した地域活性化研究会を4回実施した（6/4、7/4、8/7、9/12）。

### 2-3 知財管理についての取組計画

- 弁理士に依頼して、教員の特許執筆の指導を受け、特許発掘を行う。
- 出願した特許の申請の審査を行い、取得特許の活用促進を検討する。
- 弁理士による教員の特許明細書執筆の個別指導を実施（7月、9月、10月、11月、12月、1月、2月、3月）
- 出願した特許の申請の審査を行い、取得特許の活用促進を検討する。
  - ・出願した特許について審査請求判断を適切に行うため、信州TLOによる特許ヒアリングを実施した。

## 2-4 地域技術者育成への貢献（社会人の学び直し等）

- 地方公共団体、経済団体等と連携して社会人の学び直しの講座を実施し、社会ニーズに合わせた講座の充実を行う。
- 産学連携及び共同研究成果の発表会を実施して公開する。

（実績報告）

- 地方公共団体、テクノ財団や地域センター、県職業能力協会、長野市等と連携して社会ニーズに対応した講座を実施している。学外や学内で50以上の講座、180以上の回数を行った。
- 「イノベーション・ジャパン 2018 - 大学見本市&ビジネスマッチング」（8月30日及び8月31日）に、電子制御工学科・中山准教授が出展及び発表を行った。（表皮効果損失を低減する低損失伝送線路技術の提案）。「2018 防災産業展 in 東京」（5月30日（水）～6月1日（金））に、環境都市工学科・古本教授が出展協力を行った。（全国のKOSEN（高専）が提案する未来防災システムと高専における防災人材育成）。

## 2-5 小中学校と連携した理科教育支援への取組計画

- サイエンス・ツアー（出前授業）は、小中学校の学習指導要領を踏まえたテーマを加え、選択の幅を拡げるとともに内容の充実を図る。
- サイエンス・ライブ（公開講座）は、参加者にアンケートを実施し、その結果をHP等で公表するとともにPDCAの中でより充実した内容となるよう検討する。
- 各学科の特色をアピールするテーマを検討する。

（実績報告）

- サイエンス・ツアー（出前授業）・・・テーマ募集期間4/20～5/1，公開テーマ数26，実施テーマ：43件（参加者総数1,663名）
- サイエンス・ライブ（公開講座）・・・実施テーマ：11件
  - ①プログラミング入門，東北中共催，
  - ②Javaプログラミング入門（7/8）
  - ③小中学生のための電子制御入門講座マイコンで自走車を動かそう（8/11）
  - ④だれでも理解できる！「簡単・お手軽 マイコン入門」（8/18）
  - ⑤子どもプログラミング教室（8/20）
  - ⑥子どもプログラミング教室（8/25）
  - ⑦コンピュータグラフィックス（CG）で新しい世界をつくろう!!（9/15）
  - ⑧体験！環境都市工学科（11/17）
  - ⑨空中に絵を描こう～バーサライタの作成～（11/23）
  - ⑩かんたん組立てキット『リトルビッツ』を用いた電子工作（12/1）
  - ⑪小中学生バスケットボール教室『スポコミ×高専 バスケ塾』（4～3月の毎週火曜日）参加者にアンケートを実施しており、これを集計して1年間に行ったサイエンス・ライブのまとめとしてHP等で公表する検討を行った。
- 各学科の特色をアピールするため、学科の全教員が対応できるテーマを1テーマは設定し、環境工学科などで実施した。

## 2-6 地域共同テクノセンター等の活用計画

- 地域共同テクノセンターを中心に、研究協力・産学連携係と連携して、技術相談、評価試験、共同研究、受託研究を実施し、外部資金の獲得を促進する。
- 各種産業展に参加し、PRを図る。

(実績報告)

- 地域共同テクノセンターを中心に、研究協力・産学連携係と連携して、技術相談、評価試験、共同研究、受託研究を実施し、外部資金の獲得を図った。
  - ・共同研究新規 16 件、受託研究新規 1 件、寄付金 32 件、技術相談 18 件
- ・しんきんビジネスフェア（5/16）に出展（1ブース）、来場者数 2,700 名
- ・ぞっこんさく市（10/6・7）に出展（2ブース）来場者数 5,200 名
- ・諏訪圏工業メッセ（10/18～20）に出展（2ブース）、来場者数 28,876 名
- ・産業フェア in 信州（10/26・27）に出展（5ブース）、来場者数 13,714 名
- ・上田産業展（10/26・27）に出展（2ブース）、来場者数 6,413 名

## 2-7 その他

- 県内各所で開催される産業フェア等に積極的に出展する。
- キッズサイエンスについては、「長野高専キッズサイエンス」として再編して本校内に事務局を設けて実施する。
- 図書館講演会を開催し、長野高専及び図書館利用について、一般市民へPRを図る。
- 図書館講演会とサイエンス・ライブの連携を検討する。
- 上記高専ロボコン大会を含む県内各イベントで、長野高専の積極的なPRを図る。

(実績報告)

- 県内各所で開催される産業フェア等に積極的に出展した。会場は、諏訪、佐久、上田、長野の各地である（前掲）。
- 本校内に事務局を設けて再編実施した「長野高専キッズサイエンス 2018」は、前期末試験直後を避けて開催し、テーマ総数 39 のうち長野高専からは 16 テーマが参加できた（来場者総数 1,647 名）過去の行楽シーズン土・日曜日に開催した中で最高の参加者数となった。
- 図書館講演会「かこさとしの「地球」と「宇宙」～七夕の夜に『地球と』と「宇宙」を読んでみよう～」7月6日に開催しを開催し、計 61 名の参加があった。あわせて図書館案内等を配布し、長野高専及び図書館利用について、一般市民へPRを図った。
- 広報企画委員会において図書館講演会とサイエンス・ライブの連携について、今後の可能性の検討を行ったが、継続課題となった。
- 10月14日（日）に開催された『高専ロボコン 2018 関東甲信越地区大会』の結果を受けて長野高専ロボコンチーム『Nature(ネーチャー)』が全国大会に出場したため、両国国技館で11月25日（日）に開催された同大会へ応援参加者を募り派遣した。
- 県内の各イベントにおいて、広報グッズを配布するなど長野高専のPRに努めた。

### 【3. 国際交流等に関する事項】

#### 3-1 国際交流協定の締結

○国際交流協定締結校との交流を実施する。

- ・海外協定校からの長期・短期受入及び派遣を進め、学生間の交流をさらに図る。

○海外教育機関との学術交流協定締結の可能性を調査する。

(実績報告)

○国際交流協定締結校との交流を実施する。

- ・海外協定校からの長期・短期受入及び派遣を進め、学生間の交流をさらに図っている。

実績

- ・2月28日から5月15日まで香港 IVE 学生2名受け入れ
- ・5月15日から5月23日まで香港 IVE 学生8名受け入れ
- ・6月11日から8月10日までタマサート大学学生3名受け入れ（うち1名は7月1日から）
- ・9月3日から10月12日までシンガポールポリテク学生2名受け入れ
- ・9月18日から9月28日までタイテクニカルカレッジ2校学生計30名受け入れ
- ・10月2日から1月31日までシンガポールリパブリック学生3名受け入れ
- ・3月5日から5月11日までの予定で香港 IVE 学生3名受け入れ中
- ・来年度の4月から香港 IVE 学生数名受け入れの相談を実施中

上記受け入れに対して昨年度作成した受け入れ研究テーマ一覧を、長野高専のアクティビティをより広く認識してもらうためにリバイス中。

○海外教育機関との学術交流協定締結の可能性を調査する。

中国、カンボジアを相手策とした協定締結を検討していたが、本年度の締結は先方社会情勢から断念。協議を継続する。

#### 3-2 学生の海外派遣計画

○学生の海外渡航を推進する。

- ・学生の国際会議への参加を推進する。
- ・海外協定校および本校に協力いただける企業等での研修プログラムをさらに充実させるとともに、第2ブロック内の他高専および高専機構から提供されるプログラムも紹介し、学生の海外渡航を推進する。

○海外インターンシップへの参加を推進する。

- ・海外協定校および本校に協力いただける企業等での海外インターンシッププログラムをさらに充実させる。

(実績報告)

○学生の海外渡航を推進する。

- ・学生の国際会議への参加を推進する。
- ・海外協定校および本校に協力いただける企業等での研修プログラムをさらに充実させるとともに、第2ブロック内の他高専および高専機構から提供されるプログラムも紹介し、学生の海外渡航を推進する。

実績（本校主催海外研修）

- ・8月22日から8月29日まで香港 IVE へ6名派遣
- ・9月5日から9月18日まで台湾国立台北科学科技大学へ5名派遣
- ・9月11日から9月17日までダナン工科大学（ベトナム）へ5名派遣
- ・9月10日から9月14日までハイフォン日本語学校（ベトナム）へ4名派遣
- ・9月17日から9月21日までハイフォン日本語学校（ベトナム）へ3名派遣

- ・ 9月10日から9月14日まで日特建設（インドネシア）へ2名派遣
- ・ 9月3日から9月7日までカンボジア環境省へ1名派遣
- ・ 8月21日から9月2日まで中国国際放送局へ8名派遣
- ・ 3月18日から3月27日まで香港 IVE へ1名派遣

実績（他校主催海外研修）

- ・ 9月3日から9月16日まで大連東軟信息学院（中国）へ2名派遣
- ・ 9月2日から9月9日までシリコンバレージャパユニバーシティ（アメリカ合衆国）へ1名派遣
- ・ 8月18日から9月2日までシンガポールポリテクニクへ2名派遣
- ・ 9月9日から9月18日までシンガポールポリテクニクスタートアッププログラムへ3名派遣、3月国内最終研修で最優秀賞受賞

実績（国際学会参加）

- ・ 6月30日から7月7日までスペインマドリードへ2名派遣

○海外インターンシップへの参加を推進する。

- ・ エンジニア教育の効果の高いシンガポールポリテクニクとの相互交流研修プログラムを策定中。
- ・ 年度末に海外研修希望者アンケートを実施。回答率 20%であるが、回答者の 60%が参加を希望している。早めに情報を提示することで海外研修事業の認識度を上げ、参加者の増加を推進する。

### 3-3 留学生の受入体制の強化計画（留学生用の居室整備またはこれに類するものを含む）

○留学生の受入れ体制の強化のため、インフラ整備の検討を行う。

（実績報告）

- 留学生の受入れ体制の強化のため、インフラ整備の検討の上、シャワー室換気設備の改善を行った。
- 短期、中期留学生に対しては、ホームステイなど学外協力体制の確立も検討した。

### 3-4 外国人留学生に対する研修の実施計画

○外国人留学生に対する研修の実施計画を策定する。

- ・ 留学生との意見交換会を実施する。
- ・ 留学生の研修旅行を実施する。
- ・ 留学生とチューターとの交流を充実する。

（実績報告）

- 外国人留学生に対する研修の実施計画を策定する。
- ・ 留学生との意見交換会を実施した。その結果、地域交流を求める声があり、検討を実施。今年度は予定が合わなかったが、来年度以降関係を持たた近隣機関（幼稚園、中学校、高校）等と交流を計画している。
- ・ 留学生の研修旅行を11月に飛騨高山にて実施した。
- ・ 留学生とチューターとの交流の充実に努めている。

### 3-5 高専教育モデルの海外展開（タイ）

○海外展開事業（タイ）における協力支援幹事校として実施計画を策定する。

- ・ 協力支援校（木更津・長岡・富山・熊本・沖縄高専）との連携を密にする。
- ・ 協力支援校との業務分担を行う。
- ・ タイ協働センター内での業務分担を行う。

○タイテクニカルカレッジ高専コースの教育高度化を支援する。

- ・ 高専コース学生の学力を把握した上で教材を開発する。
- ・ 高専コースの教育内容を精査した上で、高度化のため日本・タイでの指導を実施する。

- ・現地での入試業務を定着させるための支援を実施する。

(実績報告)

### 3-5 高専教育モデルの海外展開 (タイ)

○海外展開事業(タイ)における協力支援幹事校として計画を策定し、状況に応じて修正を加えながら支援・指導を実施した。

- ・5月31日(木)に、支援校会議(協力支援校(木更津・長岡・富山・熊本・沖縄高専)、タイリエゾンオフィス・機構本部、協力支援幹事校(長野高専)との打ち合わせ)を開催し、テクニカルカレッジ高専コース(チョンブリ・スラナリの2校: Science Based Technology Vocational College(Chonburi)・Suranaree Technical College)への支援・指導の前期(5月～9月)主要科目を数学、理科(物理)、基礎電気、情報リテラシーとした。また、高専コース学生の学力評価のため、主要科目を対象に中間・期末アセスメントを実施することとした。前期主要科目は、木更津・長野高専が数学、富山・長野高専が理科(物理)、長岡・長野高専が基礎電気、熊本・沖縄高専が情報リテラシーを担当することとした。
- ・協力支援幹事校として学内(タイ協働センター)での業務分担を6月11日(月)に検討し、主要科目への支援・指導は主に特命教授を中心に行い、高専コースやタイ教育省OVEC(Office of the Vocational Education Commission)、協力支援校・タイリエゾンオフィス・機構本部との連絡・調整などは事務補佐員に依頼することとした。
- ・10月5日(金)開催の支援校会議にて、前期期末アセスメントで理科(物理)・基礎電気の成績が低かった点に関し、理科(物理)・基礎電気では中間アセスメント以降の授業範囲が広範で、学生の理解が十分ではなかったことが原因との意見で一致した。前期授業内容はタイ主導で決められていたが、後期(10月～2月)は高専コース2校・OVEC、タイリエゾンオフィス・機構本部・協力支援幹事校で打ち合わせを行い、授業内容・スケジュールを調整することとした。このため、10月11日(木)にチョンブリにて、チョンブリ・スラナリの校長・副校長・教員、OVECと共に会議を開催し、後期授業計画・内容、使用教材などを確認した。また、前期に実施した1～2週間程度の出張では、タイ教員への教授方法指導・学生の能力向上のための演習実施などが不十分であったことから、OVECの依頼に基づき、後期は1ヵ月単位の連続した支援・指導を行うこととした。さらに、成績不振学生に対しては、タイ側で担当教員を決めて中学レベルからの復習も含めて復習を行うよう要請した。
- ・後期主要科目は、数学、理科(化学)、情報リテラシー、生物とし、支援校・幹事校で分担して支援・指導にあたった。また、前期に成績が低かった理科(物理)・基礎電気に関しては、補習・再試験を行い、学生の理解度向上に努めた。前期の反省を踏まえた支援・指導により、タイ高専コース学生のアセスメント結果(平均点)にある程度の向上が認められた。しかし、後期中間アセスメント以降、アセスメント問題の作成方法・レベル、日本側教員の指導方法や考え方の違いにより、タイ側に混乱や誤解を生じさせたようである。このため、後期期末アセスメントでは、タイ側に出題意図を示し、問題作成に関してタイ側教員との意見交換を行った。また、支援する高専教員間で共通理解を持つよう意識した。
- ・12月19日(水)開催の支援校会議では、次年度新入生よりプレミアムコースと名称を変更することが報告された。また、その後、次年度2年生に対しては高専コースの名称を維持することも確認された。

協力支援幹事校として、TV会議なども活用して協力支援校、タイリエゾンオフィス、機構本部との連携を密にして事業を展開できた。また、1月18日(金)、3月7日(木)、3月28日(木)には、本年度の取り組みを踏まえて、次年度以降の支援・指導について検討を行い、タイ教員の指導力向上、教材(演習問題などを含む)の充実、大学・企業との連携などが必要との結論に至った。このため、授業計画・内容検討、タイ教員研修、教材資料のデータベース化、産学連携などを次年度の実施項目とすることとし、詳細な検討に入った。

○タイテクニカルカレッジ高専コースの教育高度化支援のため、下記事業を実施した。

- ・ 4月16日(月)～4月21日(土) 於：長野高専  
タイテクニカルカレッジ教員4名へのWorkshop Practice研修(長野高専が担当)
- ・ 5月3日(木) 於：バンコク タイ教育省OVEC  
高専コース2校の入学式(高専機構理事長、機構職員、長野高専教員が出席)
- ・ 5月19日(土)～5月27日(日) 於：高専コース(チョンブリ・スラナリ)  
タイの中学での教育内容を把握する目的で、日本の中学校レベルで数学・理科(物理)の問題を英文で作成し、スラナリ・チョンブリにて学力調査を実施した(長野高専が担当)。また、数学・理科(物理)・電気基礎などの授業、工場実習を視察し、教授内容などについて検討した。
- ・ 7月18日(水) 於：高専コース(チョンブリ・スラナリ)  
前期中間アセスメント実施(長野・熊本高専、機構本部が担当)  
問題作成は数学・理科(物理)・基礎電気を長野高専、情報リテラシーを熊本高専が担当し、和文で作成した後に、業者によるタイ語への翻訳、沖縄高専スリヨン先生の確認を経て完成させた。前期中間アセスメントの翌日、両校の担当者がバンコクに集まり、結果報告・分析を実施し、報告書を作成した。
- ・ 8月13日(月)～8月20日(月) 於：高専コース(チョンブリ)  
高専コース学生・教員支援(木更津・長岡・長野高専が担当)
- ・ 8月21日(火)～8月27日(月) 於：高専コース(スラナリ)  
高専コース学生・教員支援(木更津・長岡・富山高専が担当)
- ・ 8月26日(日)～9月13日(木) 於：高専コース(チョンブリ・スラナリ)  
高専コース学生・教員支援(長野高専が担当)  
前期期末アセスメントに向けて授業進捗状況を確認した。また、学生・教員の能力向上のために模擬授業を行う他、高専コース学生用に準備した演習問題に取り組みさせた。
- ・ 9月11日(火) 於：高専コース(チョンブリ・スラナリ)  
前期期末アセスメント実施(長野高専、機構本部が担当)  
実施科目は数学・理科(物理)・基礎電気とし、長野高専にて和文・英文問題を作成した後に、業者によるタイ語への翻訳、沖縄高専スリヨン先生の確認を経て問題を完成させた。前期期末アセスメントの翌日、両校の担当者がバンコクに集まり、結果報告・分析を実施し、報告書を作成した。
- ・ 10月7日(日)～10月12日(金) 於：高専コース(チョンブリ)  
高専コース(チョンブリ)の後期開始(10月8日(月)～)に合わせて授業視察を行い、高専コースで提案した授業内容を確認した(長野高専が担当)。
- ・ 10月11日(木) 於：高専コース(チョンブリ)  
チョンブリ・スラナリの両校長、タイ高専コース(チョンブリ・スラナリ)学科長・教員、OVEC、タイリエゾンオフィス、機構本部、協力支援幹事校で集まり、後期主要科目は数学、理科(化学)、生物、工学基礎、情報リテラシーに決定した。また、校長・学科長および主要科目担当教員と共に授業内容・スケジュールについて検討し、後期中間アセスメントを12月12日(水)・13日(木)、期末アセスメントを2月6日(水)・7日(木)に、2回のプログラミング演習(6時間×5日：熊本高専担当)を実施することとした。数学では、高専で使用している「新基礎数学」を教科書で使用することが確定したため、長野高専担当で英訳することとした。さらに、前期の数学・理科(物理)で成績不振の学生を対象とした復習の必要性を提案し、受け入れられた。
- ・ 10月23日(火)～11月21日(水) 於：高専コース(チョンブリ)  
11月28日(水)～12月27日(木) 於：高専コース(スラナリ)  
OVECから依頼を受けた一ヵ月単位の滞在により、高専コース教員への繰り返しの支援・指導

を行った（長野高専が担当）。また、高専コース学生への授業・復習・再試験なども担当し、学生の学力向上に努めた。

- ・ 12月12日(水)・13日(木) 於：高専コース（チョンブリ・スラナリ）  
後期中間アセスメント実施（長野・熊本高専、機構本部が担当）  
問題作成は数学・理科(化学)・生物を長野高専、情報リテラシーを熊本高専が担当し、和文で作成した後に、業者によるタイ語への翻訳、沖縄高専スリヨン先生の確認を経て完成させた。後期中間アセスメントの翌日、両校の担当者がバンコクに集まり、結果報告・分析を実施し、報告書を作成した。
- ・ 2月6日(水)・7日(木) 於：高専コース（チョンブリ・スラナリ）  
後期期末アセスメント実施（長野・木更津・長岡・熊本高専、機構本部が担当）  
問題作成は数学・理科(化学)・生物を長野高専、情報リテラシーを熊本高専が担当し、和文で作成した後に、業者によるタイ語への翻訳、沖縄高専スリヨン先生の確認を経て完成させた。後期期末アセスメントの翌日、両校の担当者がバンコクに集まり、結果報告・分析を実施し、報告書を作成した。
- ・ 2月23日(土) 於：高専コース（チョンブリ・スラナリ）  
入試実施（長野・木更津・長岡・熊本・沖縄高専、機構本部が担当）  
問題作成は数学・理科(物理)を長野・木更津・長岡高専が担当し、和文で作成した後に、業者によるタイ語への翻訳、沖縄高専スリヨン先生の確認を経て完成させた。英語は熊本高専が担当し、長野高専非常勤講師（ネイティブ）の確認を経て完成させた。入試後、両校における合否判定会議にオブザーバーとして出席し、また、両校の担当者がOVECに集まり、結果を報告した。
- ・ 3月20日(水)～3月31日(日) 於：高専コース（スラナリ・チョンブリ）  
次年度のタイテクニカルカレッジ高専・プレミアムコースの授業計画について、タイ教員の考えを聞き、授業内容検討のための資料を作成した。

協力支援幹事校として、高専コースの教育高度化支援に対する中心的役割を果たすことができた。ただし、高専教員による連続した長期支援・指導のためには早期の計画立案が不可欠であり、タイテクニカルカレッジ・タイ教育省 OVEC との連携をさらに密にする必要がある。

本年度の反省を踏まえて協力支援校、タイリエゾンオフィス、機構本部と共に次年度の計画立案に早期に取り掛かることができた。次年度は、科目ごと（数学、物理・化学、電気・電子、情報・制御、機械）に支援チームを組み、教員研修（事前研修、現地指導、フォローアップ）、アセスメントなどを担当することとした。



## 【4. 管理運営に関する事項】

### 4-1 危機管理への対応

- 学生及び教職員に対する危機管理の改善を推進する。
  - ・安全管理意識を年度早期に徹底するため、総合防災訓練を年度早期（5月）に実施する。
  - ・定期的に校内安全衛生巡視を実施し、改善を要する事項について迅速に対応する。
  - ・防災備蓄倉庫の備蓄状況を定期的に確認し、必要に応じて更新・補充する。
- リスク管理室において、緊急対応等が必要な事態の発生に備えるとともに、発生又は発生することが予測される事態に伴う危機に対して、迅速かつ的確に対処する。

（実績報告）

- 学生及び教職員に対する危機管理の改善を推進する。
  - ・安全管理意識を年度早期に徹底するため、総合防災訓練を年度早期（5/30）に実施した。また、10/30に寮における避難訓練を実施した。
  - ・毎月1回校内安全衛生巡視を実施し、改善を要する事項について迅速に対応した。
  - ・防災備蓄倉庫の備蓄状況を定期的に確認した。なお、更新・補充・追加、保管場所等については、学校保健安全法により多様な自然災害及び災害別の適切な対応が求められていることから、今後防災訓練のあり方と併せ検討することとした。
  - ・防災以外のリスクを想定した危機管理マニュアルを作成した。
  - ・長野県北信地域以外で発生した災害時の安否確認フローを作成した。
- リスク管理室において、緊急対応等が必要な事態の発生に迅速かつ的確に対処を行った。

### 4-2 校内の監査体制、監事監査・内部監査及び高専相互会計内部監査の指摘・改善等への対応

- 各種監査の指摘・改善等に的確に対応するため、会計担当職員の資質・能力の向上を目的として、高専機構主催の研修会等はもとより監査法人所属の公認会計士等による専門的な研修会及び信州大学等他機関が主催する研修会等へ積極的に参加する。また、参加者による報告会を開催し、他職員へ研修事項のフィードバックを図る。

（実績報告）

- 各種監査の指摘・改善等に的確に対応するため、会計担当職員の資質・能力の向上を目的として、下記の高専機構主催の研修会及び他機関が主催する研修会等へ参加した。
  - ・信州大学簿記研修

### 4-3 公的研究費のガイドラインに対する取組措置状況

- コンプライアンス意識向上と使用ルールの徹底を図るため、教職員に対し公的研究費の不正使用防止に関する説明会を継続的に開催し出席率を100%とする。また、新任教職員には、採用時説明会で周知を図る。その際、アンケートによりその結果を分析し説明内容の改善を図る。
- 決算検査報告事項などの重要事項を学校内専用サイトに掲載し、教職員が常時内容確認の可能な環境とする。

（実績報告）

- コンプライアンス意識向上と使用ルールの徹底を図るため、教職員（新任教職員含む）に対し公的研究費の不正使用防止に関する説明会を開催（4月2日、4月4日、5月9日、6月22日、8月1日）し、出席率を100%とした。その際、記名式アンケートによりその理解度を分析し説明内容の改善を図るとともに、質問事項はQ&Aとして本校電子掲示板に掲載し周知した。
- 公的研究費使用マニュアルを本校電子掲示板に掲載し、教職員が常時内容確認の可能な環境とした。

#### 4-4 教職員の服務監督・健康管理・コンプライアンス意識の向上に関する取組計画

- 定期健康診断及び人間ドックの受診を徹底する。
- コンプライアンス意識の向上を図る。
  - ・全教職員を対象として、コンプライアンスに関するセルフチェックを実施する。
  - ・セルフチェックの結果を確認し、回答内容に応じて適切な助言等を行う等で、全教職員のコンプライアンス意識の向上を図る。

(実績報告)

- 定期健康診断及び人間ドックの受診の徹底を図り、全対象者が受診した。
- コンプライアンス意識の向上を図る。
  - ・全教職員を対象として、コンプライアンスに関するセルフチェックを実施した。
  - ・セルフチェックの結果を確認し、回答内容に応じて適切な助言等を行う等で、全教職員のコンプライアンス意識の向上を図った。

#### 4-5 職員に対する研修の実施・参加計画（国、地方自治体、国立大学、企業等が実施する研修等の活用を含む。）

- 高専機構主催の能力向上に資する研修会に積極的に参加する。
- 国、地方自治体、国立大学法人、民間等外部団体主催の研修会の情報収集を行い、業務に関する知識及び技能の向上に資すると認められる研修会への参加を促進する。

(実績報告)

- 高専機構主催の能力向上に資する研修会へ適任者・対象者を業務に優先して以下の研修へ参加した。
  - ・初任職員研修会、東日本地域高等専門学校技術職員特別研修会（機械系）、新任教員研修会、三機関連携グローバルSD（マレーシア・ペナン研修）、IT人材育成研修会、教員研修会（管理職研修）、学生支援担当教職員研修
- 高専機構以外の外部機関主催の以下の研修へ参加した。
  - ・信州大学主催：新任職員研修、簿記研修、「評価者研修」及び「被評価者研修」、若手職員のための主体性発揮研修、新任職員のためのフォローアップ研修
  - ・日本学生支援機構主催：心の問題と成長支援ワークショップ、学生支援実務者育成研修会、キャリア教育・就職支援ワークショップ
  - ・総務省主催：情報システム統一研修（平成30年度第2／四半期）
  - ・長野県主催：自殺対策関係者研修会（思春期保健関係者研修会）
  - ・長野市主催：管内保健医療福祉関係者等研修会（感染症対策）
  - ・国立大学、高専等主催：関東信越地区国立高等専門学校技術職員研修会（情報系）、東京地区及び関東・甲信越地区実践セミナー（人事・労務・安全管理の部）

#### 4-6 人事交流計画

- 本校独自採用の事務職員を含めた信州大学との人事交流を継続する。
- 平成26年度に制度化された高専間職員交流制度の活用を検討する。
- 本校独自採用の事務職員の定期的な内部異動計画を、職員の要望や適性等に留意しつつ、外部機関への出向を含め、幅広いキャリアが育まれるよう引き続き検討・実施する。

(実績報告)

- 信州大学との協議により、4月1日付けで4名、8月1日付けで1名の事務職員の人事交流を継続実施した。
- 高専間職員交流制度について、希望者が潜在的にあり、受入側との組織上のマッチングの問題等の課題を踏まえ、引き続き実現に向けて検討した。

○来年度の異動について、職員の要望や適性等に配慮しつつ、幅広いキャリアが育まれるよう異動計画の検討を進めた。

#### 4-7 資産の有効活用方策, IT 資産の管理

- 教職員の意識向上を図るため、外部講師を招きサーバーセキュリティ研修会を行う。また、eラーニングによる研修方法を検討する。
- 校内における備品のリユースを一層推進し、資産の有効利用を図る。
- ソフトウェアライセンス管理を適正に行い、機構本部が有するIT資産管理システムへの登録を継続的に行う。

(実績報告)

- 平成30年6月6日に株式会社ラックの長谷川長一氏を迎えて、「サイバーセキュリティの重要性～情報詐取の手口と防衛法～」というタイトルで、教職員向けのサイバーセキュリティ講習会を実施した。専門的な用語が散見されましたが、門外漢の人にもわかりやすい内容となった。参加者は81名で、開催時期や開始時間に改善の余地があるものの、内容について、ネガティブな意見もなく、良好であったと考えられる。また、eラーニングによる全教職員を対象とした情報セキュリティ教育の研修を12/21まで実施中した。
- 校内における備品のリユースを一層推進し、資産の有効利用を図った。
- ソフトウェアライセンス管理を適正に行い、機構本部が有するIT資産管理システムへの登録を継続的に行った。

## 【5. 業務運営の効率化に関する事項】

### 5-1 一般管理費の縮減取組計画

- 高等専門学校設置基準により必要とされる最低限の教員の給与相当額及び各年度特別に措置しなければならない経費を除き、高専機構の数値目標に沿って、一般管理費（人件費相当額を除く。）については3%、その他については1%の効率化を図る。
- 予算の有効活用のための方策を検討し、予算配分方針を定める。
- 学内営繕等については、緊急性・必要性等を学内委員会等に諮ったうえで、優先度の高いものから実施し、施設保全管理の効率化に努める。

（実績報告）

- 予算の有効活用のための方策を検討し、予算配分方針を定めた。
- 予算配分においては、校長のリーダーシップを十分に発揮できるよう校長裁量経費を確保した。
- 全校的な視野から教育研究活動のなお一層の活性化を促し、充実・発展を図ることを目的に特別経費を確保した。
- 学内営繕等については、緊急性・必要性等を学内委員会等に諮ったうえで、優先度の高い修繕事項から実施し、施設保全管理の効率化に努めた。

### 5-2 随意契約の見直し状況

- 業務運営の効率性及び国民の信頼性の観点から、引き続き、契約に関しては一般競争入札とすることを原則とし、随意契約についての見直しを図り、仕様策定に際しては競争性の確保に留意した仕様とするよう努める。

（実績報告）

- 契約にあたっては、一般競争により入札を実施した。また、仕様策定においては、複数業者が入札参加できるよう、市場調査等を通じて競争性の確保に努めた。
- 予定価 250 万円以上の工事契約に関しては一般競争入札とし 1 社入札とならないよう入札情報の周知を図ったが工事入札案件 3 件の内、1 件が 1 社入札となったため参加条件の緩和について検討した。

## 【6. その他】

### 6-1 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

○以下の土地等の譲渡に向けた手続きを進める。

- ・黒姫山荘(合宿研修施設)土地建物売却一式

(長野県上水内郡信濃町大字野尻字黒姫山 3884 番 6) 土地 8,547 m<sup>2</sup>(建物 347.79 m<sup>2</sup>(木造 2 階建))

(実績報告)

○一般競争入札を 2 回実施するも応札者がおらず、譲渡の見通しは立っていない。当該施設の存する地域は豪雪地帯で、過疎化などの状況から資産の売り払いは困難な情勢である。

- ・黒姫山荘(合宿研修施設)土地建物売却一式

(長野県上水内郡信濃町大字野尻字黒姫山 3884 番 6) 土地 8,547 m<sup>2</sup>(建物 347.79 m<sup>2</sup>(木造 2 階建))